

ホクレン営農支援情報

(2019年11月号)

●第2回スマート酪農・農業機械展示会 in 宗谷を開催 《稚内支所 営農支援室》

9月20～21日の2日間、宗谷管内系統購買事業推進協議会主催の「スマート酪農・農業機械展示会 in 宗谷」を開催しました。約2年ぶり2回目の開催となった今回は、約170名が来場しました。宗谷地域の酪農畜産の発展を目的とした今回の展示会。最新の生産技術への取組みと農業機械の新技术に関する情報を生産者へ向け発信しました。

なお、20日に実施した全5セミナーには、延べ約260名が出席。各セミナーの内容は下記のとおりです。



告知チラシ



セミナーの様子



GPS自動操舵トラクター試乗会の様子

演題		講師
衛星測位システム(GNSS ガイダンス)及び自動操舵システムの現状と活用について		ホクレン農総研 営農支援センター
搾乳ロボットの形態別機能と特長について	ボックス型・ロータリー型	北海道オリオン株式会社
	ボックス型	株式会社コーンズ・エージー
	ボックス型・ロータリー型	デラバル株式会社
	つなぎ牛舎型	株式会社ピュアライン

● **落花生の安定生産に向けた栽培試験** 《岩見沢支所 営農支援室》

JA いわみざわでは平成 25 年より協議会を設立し、落花生をハウスや露地で栽培しています。今年、安定生産に向けた試験として、子房柄※が貫通するポリマルチを使用した栽培を実施。9 月 25 日に収量調査を行いました。今後、結果をまとめ次年度以降の栽培に活用する予定です。

※子房柄…花が咲き終わった後に、花の付け根の子房が根のように土に向けて伸びた部位。土中でさらに伸びた子房柄の先端が膨らみ子実となる。



生分解性マルチで栽培した慣行区(左)と銀ねずポリマルチで栽培した試験区(右)

● **傾斜地における自動操舵トラクターの精度確認試験** 《旭川支所 営農支援室》

旭川支所営農支援室と JA びえいは、RTK-GNSS を利用した自動操舵トラクターの傾斜地における作業精度の確認と、生産者への試乗実演会を行いました。

RTK-GNSS を導入している地域は比較的平坦地が多いため、丘陵地や変形地などのデータが不足しているのが現状です。今回の精度確認で得られたデータは現在分析中ですが、圃場を提供した生産者は「自分で作業をするより掛け合わせ幅が小さく安定性がよい。作業の軌跡が分かりやすい」と評価していました。また、自動操舵トラクターを導入していない生産者に秋播き小麦後の圃場でディスクハロー作業の試乗を行ってもらい、使い勝手や作業効

果などを体験してもらいました。



● 「差圧通風方式」による南瓜の乾燥実験を実施 《苫小牧支所 営農支援室》

これまで南瓜の風乾作業は、一個ずつ並べる方法が一般的でした。しかし、近年はスチールコンテナ等を利用した大型ロットでの受け渡しが増えていることをふまえ、コンテナに入れたままでの乾燥方法を検討しています。苫小牧支所では、上川農業試験場における研究成果などを参考にしながら、ホクレン長沼研究農場園芸作物開発課と協力し、JA 伊達市管内にて乾燥実験を行いました。

今後、腐敗果の発生状況などを確認し、低コストで省力化に結びつく新たな風乾技術としての可能性について検証していく予定です。



ファン（左）でコンテナ内の空気を吸引することで通気口（右）から効率的に空気を取り入れ通風させる

●さつまいもの収穫および調査の開始について 《長沼研究農場 園芸作物開発課》

近年、北海道でも一部の地域でさつまいもの栽培が行われています。また、北海道で栽培されたさつまいもは、本州のものと比較して粘質気味でその分甘味が強いとされています。

当課では、各品種の特性の把握などを目的として試験栽培および展示を行っています。本年は10月10日に収穫し、調査を行いました。



当課では、視察受け入れも行っています。ご興味のある方は、園芸作物開発課まで。

(Tel : 0123-88-1990)

●残渣いも拾いにミニハーベスターの使用を開始 《恵庭研究農場 畑作物開発課》



恵庭研究農場では馬鈴しょの育種に取り組んでおり、毎年7万株程度の馬鈴しょを植付けています。しかし選抜された未来の品種候補よりも、試験に落ちてしまう馬鈴しょの数の方が遥かに多く、野良いも発生防止のため、それらの片付けは重要な仕事です。これまで全て手作業で拾っていましたが、今年から馬鈴しょ用のミニハーベスターを導入しました。少しでも

身体への負担が減ること、また作業を迅速化することを目指し取り組んでいます。

● 道総研花・野菜技術センターとホクレン農業総合研究所との共同開発技術

「MA フィルムを用いた青果物輸送技術」の啓発活動 《食品流通研究課》

MA フィルムとは、袋内の酸素や二酸化炭素濃度を調整することで農産物の鮮度を保持する特殊なフィルムです。ホクレン農総研では MA フィルムを用いた輸送技術の研究に取り組んでいます。なお、昨年 of 全日本包装技術研究大会で発表した「MA フィルムを利用したブロッコリーの輸送技術」は優秀研究発表賞に選出されました。

この技術の普及のために、9月4～5日に東京都で開催された「インフォメーションバザール（主催：北洋銀行・帯広信用金庫）」に出展し、全国の青果物バイヤーを対象に技術の紹介をしました。

また、11月20日に開催予定の道総研オープンフォーラム「たべ LABO マルシェ」では、当技術の詳細について、花・野菜技術センターとホクレン農総研の担当者が説明します。ぜひご来場下さい。



インフォメーションバザールでの MA フィルムで輸送したスイートコーンの試食の様子

たべ LABO マルシェ情報

【日時】 11月20日（水）12～16時

【場所】 札幌ビューホテル大通公園

【参加】 無料（11月13日までに申し込みが必要）

【イベントに関する URL】

<http://www.hro.or.jp/tabelabo/tabelabo.html>



● 「農福連携」に向けた農業・福祉関係者地域交流会を開催 《営農支援推進課》

農業の現場では働き手の確保が年々難しくなっているなか、ホクレンでは障がいのある

方にとって農業を働く場の一つとして選択してもらうことを目的に「農福連携」を推進しています。9月12日にホクレン長沼研究農場で実施した「『農福連携』に向けた農業・福祉関係者地域交流会」には、障がい者支援施設や行政、JA関係者など約50名が参加。福祉関係者と農業関係者がお互いを知り、課題や取り組み内容を理解することができました。

交流会では、JAやホクレンから作物ごとの農業体系や作業内容を説明したほか、長沼研究農場内の農機具庫や園芸用ハウスを見学しました。その後、酪農学園大学の義平教授をコーディネーターとして意見交換を実施。障

がい者が取り組み可能な作業や賃金などについても話が及びました。「作業を分かりやすく捉えることができるテキストや動画があると障がい者が理解しやすい」「草取りなどの軽作業から始め、次に収穫作業をするなど徐々に作業内容を拡大するほうがよい」などの意見がありました。

ホクレンでは今後も農福連携に向けた協議を継続し、まずは南空知エリアを中心に地域共生のモデルづくりを行い、他地区にも発展させたいと考えています。



活発な議論が行われた意見交換



トマトハウスを見学

●担い手向け研修会（小麦・大豆）を札幌で開催します 《営農支援推進課》

ホクレンでは、担い手生産者を対象に「小麦・大豆」をテーマとした研修会を下記のとおりで開催します。昨年につき今回は2回目の開催となります。昨年の同研修会は28名が参加し「講習内容も良く、たくさんの人と交流できた」などのコメントがあり好評でした。今年も皆様のご参加をお待ちしています。



昨年の研修会の様子

【開催日時】 令和元年12月10日（火）10:20～11日（水）13:50

※1泊2日の合宿研修

【受講場所】 ホクレン研修センター（札幌市東区北22条東2丁目）

【受講対象】 小麦・大豆を生産する農家後継者（概ね就農5年以内のUターン、親元、新規就農者など）

【研修内容】 畑作における土づくり、小麦・大豆の生育と栽培管理の基本、小麦の品質評価、小麦・大豆の販売情勢、畑作の病害虫と防除法、畑作地域のスマート農業 など

【申込方法】 JAを通じて、ホクレン各支所の営農支援室へ

●訓子府実証農場で女性向け農作業安全研修会を開催します 《営農支援推進課》

ホクレンでは、女性農業者を対象に農作業安全などの基礎知識の習得と女性同士のつながりを強めることを目的に、下記のとおり研修会を開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

【開催日時】 令和元年 12 月 17 日（火） 10:00～15:00

【受講場所】 ホクレン訓子府実証農場（訓子府町字駒里 184 番地 7）

【受講対象】 女性農業者（就農年数は問わない）

【研修内容】 農作業安全について、GAP でみる農場内の安全管理、自動操舵トラクターとガイダンスの仕組みなど

【申込方法】 JA を通じて、ホクレン各支所の営農支援室へ



発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp